10歳以上年齢差がある兄弟姉妹が孫となることについての考察

兄弟姉妹の間

家族を扱う仕事を通じて、私は兄弟姉妹それぞれが両親から受け取るメッセージがいかに異なるかを、ますます実感するようになっています。仏教徒である私にとって、この気づきは西洋的な精神を持つ人々ほどには驚くべきことではありません。チベット仏教の伝統では、それぞれの子供の魂は転生する際、次の学びを与えてくれる特定の両親を選ぶと教えられています。 各子どもの親には、その子の魂が何を学ぶために自分たちを選んだのかを突き止め、その知恵をその子に授ける義務があります。この美しく調和のとれた考え方の素晴らしい点は、親と子が互いに対して遺伝的な罪悪感を抱く必要がないということです。むしろ、親と子は、互いの魂を進化させる過程において対等なパートナーであることを認識するのです。西洋の家族がこの深い霊的真理を受け入れることができれば、どれほどの痛みや苦しみを避けられるだろうかと、私はしばしば考えてきました。

この真理を理解すれば、兄弟姉妹が二人以上いる家庭で、それぞれが親から異なるメッセージを受け取っている理由が容易に理解できる。何しろ、それぞれが自身の成長のために特定の何かを学ぶために、この親を選んだのだから。しかし、残念ながら、兄弟姉妹やその親たちは、この現実に気づいていないことがあまりにも多い。 実際、私の経験では、親は自分たちが子供たちに多くの異なるメッセージを伝えてきたという現実に直面すると、それを否定しがちです。彼らは、どの子供にも同じ知恵を与えたという幻想を抱き続けたいのです。同様に、私が兄弟姉妹と関わる際、彼らは親から受けたメッセージがまったく同じだったと想定しています。この幻想は、兄弟姉妹間の現実においてしばしば大きな隔たりを生み出し、それが払拭されるまでは、

彼らのコミュニケーションを非常に困難なものにしてしまう。兄弟姉妹が、それぞれが自分だけの霊的進化に特有の何かを学ぶために、この両親を選んだのだと理解すれば、コミュニケーションは急速に進み、その幻想は払拭される。いったんそのようなコミュニケーションが開かれると、兄弟姉妹は互いに受け取ったメッセージの真の性質を語り合うことにすぐに喜びを見出す。この過程を目の当たりにした両親は、やがて自分たちの抱いていた神話を払拭し、共通の問題に対処する際、なぜ子供たちの行動がこれほど頻繁に異なるのかを見極められるようになる。

これまでの私の話を理解するのが難しいと感じる西洋的な思考をお持ちの方には
理解するのが難しいと感じる方には、フランク・サロウェイの著書『*Born to Rebel: Birth Order, Family Dynamics, and Creative Lives*[1]』を読むことをお勧めします。この本は、東洋の比喩と同じ結論にあなたを導いてくれるでしょう。

兄弟姉妹やその親が、受け取ったメッセージの違いを認識することは、二世代が共に意思決定を行う能力を根本的に変えるでしょう。ひいては、意思決定プロセスの改善が家族のガバナンス体制を強化し、最終的には家族全体の絆を強固なものにするのです。

ここで、親・子・兄弟姉妹の関係における特定の領域について触れたいと思います。私の実務経験から、親から子へのメッセージ伝達には特に複雑な側面があることがわかりました。それは、子や孫世代の兄弟姉妹間におけるものです。 私の経験上、兄弟姉妹の年齢差が10年以上ある場合、特に末っ子と次上の兄弟姉妹との間にそのような大きな隔たりがある場合、この末っ子が両親から受け取るメッセージは、親が子供に伝えるものというよりは、祖父母が孫に伝えるメッセージに近いものであることが頻繁に見受けられます。私が関わる少なくとも10の家族でこの現象を目撃していなければ、おそらく見過ごしていたでしょう。 また、こうした家庭の兄弟姉妹の間で、なぜこれほどまでにコミュニケーションがうまくいかないのかという点についても、同様に困惑してきました。この状況を頻繁に目にするにつれ、これは家族にとって現実的かつ繰り返し生じる問題であり、明らかにすべき課題であると認識するようになりました。子どもが受け取るメッセージと、孫が受け取るメッセージとの根本的な違いには、どのような例があるでしょうか？

私の経験では、第一子や第二子は、親から「義務」や「責任」に関するメッセージを受け取り、この事実はサローウェイの研究によっても裏付けられている。同様に、三番目や四番目の子どもたちは、人生の選択においてより大きな自由と柔軟性を許容するメッセージを受け取っており、これもまたサローウェイの研究によって裏付けられている。 こうした違いについて考えてみると、若くして奮闘する親たちが、自らの経験に基づいて第一子や第二子に直接メッセージを伝えている様子が容易に想像できます。そして、より豊かな時代を迎え、高齢になった頃には、第三子や第四子に異なるメッセージを伝えることがよくあります。さて、ここで、第一子や第二子の10年後、あるいは場合によっては20年後、つまり一世代も経ってから生まれた子どもについて考えてみてください。 ここでの第三子は同じ両親を持つが、その20年の間に両親は若年成人期から中年期へと移り変わっただけでなく、生物学的にはすでに祖父母になる準備が整っている。こうした両親が、この子に、祖父母が孫に惜しみなく注ぐような純粋な愛と愛情を注ごうとしていることは容易に理解できる。 多くの場合、彼らは若い親が先に生まれた子供たちに与えていた、義務や責任に関する厳しい教えの段階をすでに乗り越えています。親からのメッセージを物事の尺度とするならば、この第三子の子供たちは、一見すると家族の中で同じ世代（生物学的には同じ親の子供）であるように見えても、実際には決して同じ親の子供ではないということが容易に理解できるでしょう。

兄弟姉妹が共同意思決定の枠組みとして家族ガバナンスの体制を構築しようと決断する場合、私の経験上、彼らが親との関係においてこうした違いを十分に認識していることはめったにない。 通常、家族ガバナンスのプロセスを開始するという決定は、祖父母の死、両親の死や精神的な判断能力の喪失、離婚、家業の売却、あるいは家族の生活におけるその他の重要な出来事といった、家族内の経済的な出来事から生じる。そのような出来事に直面して兄弟姉妹は集まり、しばしば成人して以来初めて、協力して行動することが求められる。 大規模な祝日の集まりの計画を立てる以外、彼らがそのような協力経験を持つことはめったにない。同様に、子供時代に経験したことがあったとしても、それはあくまで「子供」としての経験であり、現在の「大人」としての経験ではない。初めて一堂に会したとき、彼らはしばしば、文字通り「見知らぬ人」と対面しているような感覚を抱く。しかし、彼らは

両親から受け継いだ共通のメッセージがあれば、必要な決定を容易に下せるはずだと信じている。しかし驚いたことに、彼らには共通点がほとんどないことに気づくことが多い。この件について「お母さんやお父さんならどう言うだろう」と話し始めるとすぐに、共通のメッセージなど存在しないことに気づくのだ。この瞑想で共有される真実を知らなければ、貴重な時間を無駄にするだけでなく、さらに悪いことに、将来の意思決定を極めて困難にするような敵意を生み出してしまう恐れがある。 私の経験では、こうした矛盾したメッセージの問題は、子や孫の兄弟姉妹グループを抱える家族にとって特に難しいものです。両親からの無条件の愛と、しばしば極めて自由な行動を許されて育った孫や子にとって、各家族メンバーに関する必要な最新情報を提供するための家族会議は、結果として、円滑なコミュニケーションの機会を高めることになるでしょう。 その実践法の一つとして、会議の冒頭に各参加者に、自分が情熱を注いでいることや、友人には知られているが家族には知られていないことなどを記した短い自己紹介文を書いてもらうことがあります
。私は、この実践を通じて、各参加者から自身の人生の歩み、そして私たち一人ひとりが持つ3〜5つの人格のうちの1つを垣間見られるようにすることを提案します。この情報を手にすることで、会議の参加者は、20年前の兄弟姉妹がどのような人物だったかという歪んだイメージではなく、今日その場に誰がいるのかについて理解を深めることができるでしょう。私は、家族がすべての重要な会議をこの
演習から始めることを強く推奨します。

また、兄弟姉妹が、両親からそれぞれ受け取ったメッセージについて、率直に、そして真のユーモアを交えて話し合うことを強く推奨します。それらのメッセージがいかに異なっていたかを理解する能力は、親からの異なるメッセージがあまりにも頻繁に生み出す兄弟姉妹間の誤解を克服する上で、大いに役立つでしょう。 孫と子供がいるほど大きな年齢差がある家族においては、兄弟姉妹が受け取った親からのメッセージについて話し合うことがいかに重要か、いくら強調してもしすぎることはありません。そのような話し合いが行われない場合、誤解や不適切な家族間のコミュニケーションが生じるリスクは極めて高くなります。互いの違いを認めることは、それぞれの個性を尊重するための第一歩であり、成功する家族意思決定システムを構築するための真の第一歩なのです。

孫や子供を持つ親の通常の年齢とほぼ同じ年齢の兄弟姉妹間において、問題に対する見解が狭く硬直していることは、理解するのが非常に難しい。年上の兄弟姉妹にとって、年下の兄弟姉妹が見せる「放任主義」や「気ままに振る舞う」ような行動は、良くても世間知らずに見え、最悪の場合は子供じみているように映る。 どちらの兄弟姉妹も、自分たちが観察している事柄について間違っているわけではありませんが、行動に動機を見出そうとすると、互いの動機について根本的に誤った結論に至り、共通点を見出すことができなくなってしまいます。兄弟姉妹がグループとして、同じ両親の子供という立場ではなく、一人ひとりの個人として互いを理解し始めると、動機に関する誤った思い込みは消え去ります。私の著書『*Family Wealth: Keeping It in the Family*』では、家族が実践できる方法について論じています。

皮肉なことに、見知らぬ人同士よりも、兄弟姉妹の間では、共通の目標に向かって協力し合うことが、しばしばより困難になります。 その秘訣は、私たちは生物学的には兄弟姉妹であっても、実際にはそれぞれが非凡な個人であり、たまたま同じ二人から、まったく異なることを学ぶことを選んだのだということを理解することにある。兄弟姉妹の間で年齢差が極端に大きい場合、私たちが学ぶことを選んだ教訓が大きく異なるのは当然のことだ。というのも、私たちが学ぶこととなった「真の師」となる人々が、私たちが彼らから学ぼうとした時点で、それ自体が非常に年齢が離れていたからである。

私の兄弟姉妹であるピーター、ベッツィ、バービーをはじめ、すべての兄弟姉妹へ。ナマステ

Copyright ©1999 by James E. Hughes, Jr., Esq.

---

[1] フランク・J・サロウェイ著『*Born to Rebel: Birth Order, Family Dynamics and Creative Lives*』（ヴィンテージ・ブックス、1997年）。